

## 字を大きく書くことで気持ちが変わる

2018年9月24日記

今から10年ほど前の話です。当グループが運営する東進衛星予備校藤枝駅前校（当時、現在は藤枝駅南口校）に通う、藤枝東高3年の女子生徒（島田市在住）から、7月のある日、相談を受けました。

聞くと、「私は小さい時からずっとお父さんに言われた通りやってきて、島附（静大附属島田中学校）に通い、言われるまま今は藤枝東です。1年生の12月頃の文理選択で、『お前は女の子だから文系にいきなさい。』と言われ、自分の考えも言えず文系に進みました。今は、『お前は本が好きなんだから、静岡大学の文学専攻に行きなさい。』とされています。でも、私は、・・・」

当時の東進は、ビデオテープに送られてくる衛星授業を各校舎で録画し、個別の学習スケジュールに従って、生徒が「予約受付ノート」に翌日の授業予約を記入し、受講するシステムでした。生徒の書く文字は、その生徒の個性が出るもので、当時流行っていた丸文字も生徒によっても違い、あるいは、「先生、試合、勝った！」と一言書く子もいました。

毎日、そのノートを見ながら、「この子はいつも字が小さく、弱々しい字を書くなあ」と気になっていた子が、その生徒でした。

「私はなりたい職業があって、行きたい学部があるんだけど、お母さんに相談しても、それはお父さんに言ってと言われ、でも、お父さんに面と向かって言えないんです。」と。

そこで、私は彼女に、「この予約受付ノートに書く時も、学校の授業の時も、友達にメモ書きする時も、どんな時も、字をめいっぱい大きく、強く、はっきりと書くようにしてごらん」と、アドバイスをしました。勿論、心理学的な裏付けがあつてのことです。

2ヶ月後の9月のある日曜日、一人の父親が校舎を尋ねて来ました。「あのう、ここでお世話になっている〇〇の父親ですが、やました先生は、おられますか？」

「はい？私ですが」と言うと、そのお父さん曰く、「この間、娘が初めて私に意見しにきたんですよ。それはそれは嬉しくて、娘にどうしたんだ？と聞いたんです。勿論、その娘の意見は聞きましたよ。静大の教育学部に行って小学校の先生になりたい、って言ってきたんで、驚いたんですが、『そうかそうか、そうしなさい』って言ってやりました。小さい子の時からずっといい子ですが、大人しく、それこそ反抗期もなくきた娘でして。進路も、特にここに行きたいと言うこともなく、そんな子が初めて私に自分の想いを言ったんです。そりゃあ、どうしたんだ？と思いますよね、せんせい。そしたら、娘が東進の先生に、『毎

日字を大きく書きなさい』ってアドバイスしてくれた、って言うんです。えっ？それだけ？私は、そんなアドバイスで娘がこんなに変わったんで、お礼方々是非先生にお会いしたくて来ました。」とのこと。

勿論、この 2 カ月の間、毎日来る彼女に、文字の書き方ばかりでなく、ちょっとしたことで彼女の意見を尋ねたり、想いを口に出して言わせたりしました。これも、私達の行うプログラムのほんの小さな話です。